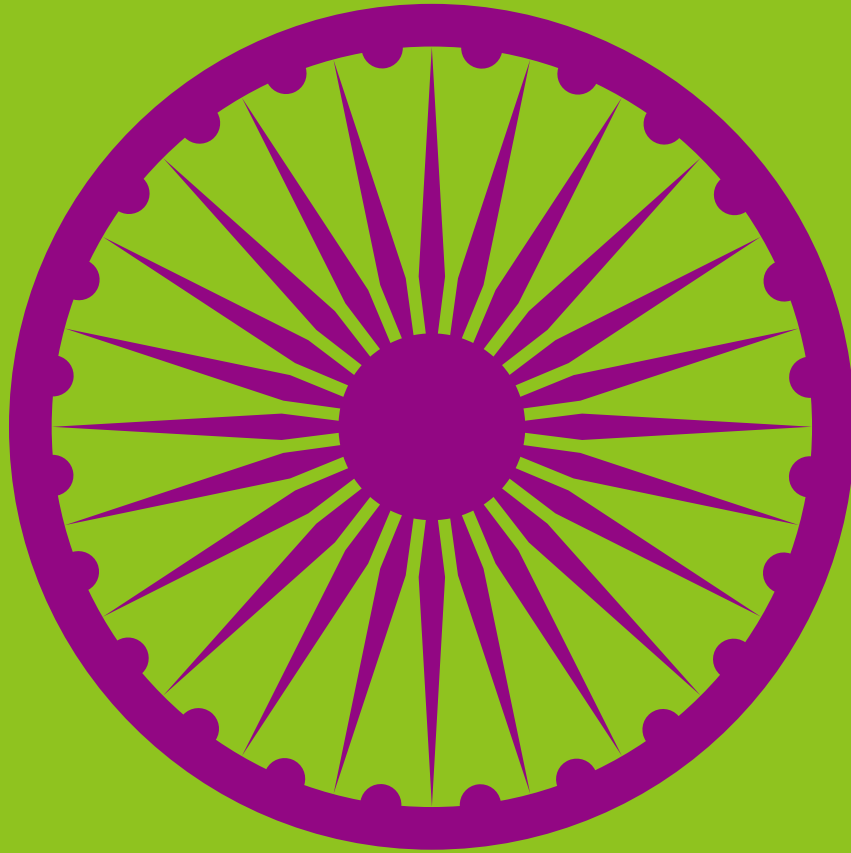


MAKE IN INDIA

メイク・イン・インディア

航空



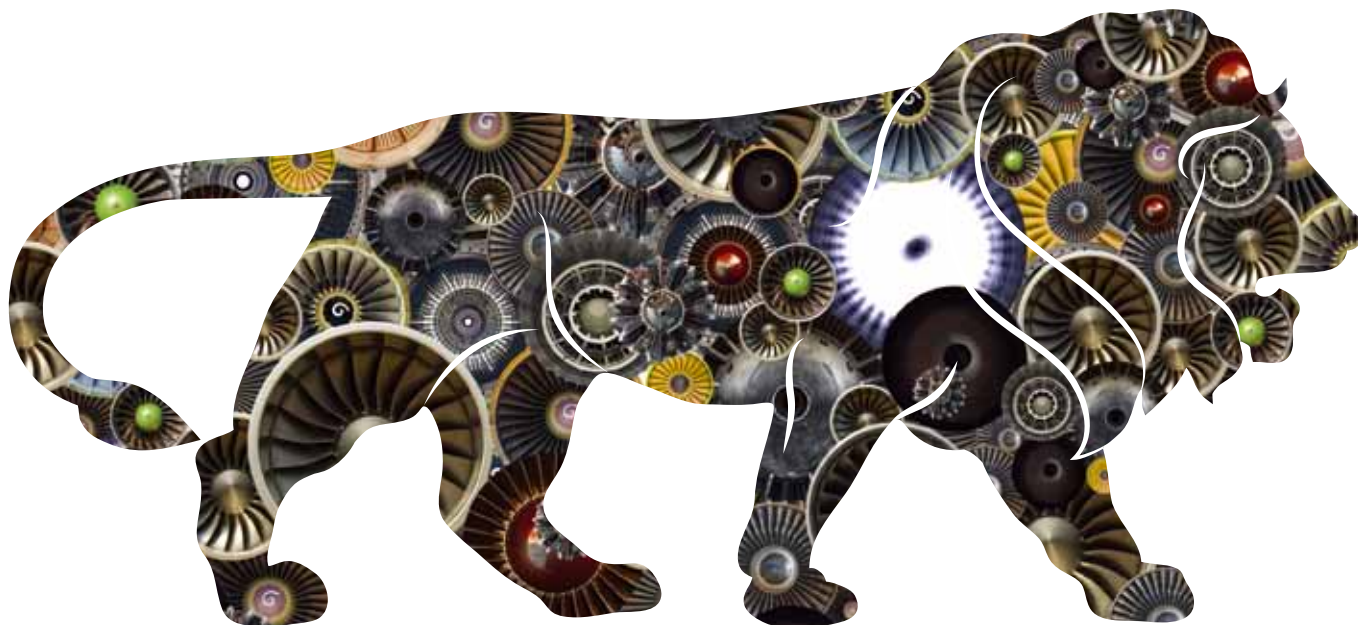
**農業から自動車まで
ハードウェアからソフトウェアまで
衛星から潜水艦まで
テレビから映画まで
橋からバイオテクノロジーまで
ペーパークリップから発電所まで
道路から都市まで
友情からパートナーシップまで
利益から進歩まで
あなたが望むものはすべて、
インドで作ってください。**



सत्यमेव जयते

太古の昔からインドの国章として
用いられているライオンは、
力、勇気、粘り強さと智恵という、
古代から今日まで受け継がれている
インド的価値観を表しています。

「アショカ・チャクラ」は
インドの国章の中心的要素であり、
また国旗の中心にもあしらわれています。
この輪が象徴する平和的進歩とダイナミズムは、
インドの啓示に満ちた過去から受け継がれ、
インドを躍動する将来に向かわせる
力となっています。



高みを目指して

旅客数は 1 億 6300 万人。
世界で最も急速に成長している航空市場。

世界第 9 位の民間航空市場

2013 年度の旅客数は 1 億 6300 万人

2017 年までには国際旅客数が 6000 万人に達する

インドと 40 以上の国を国際便で接続する 85 の国際線

2020 年までには世界第 3 位の航空市場となる

2020 年までには航空機台数が 800 に達する

新たな優遇措置

「メイク・イン・インド」プログラムには、投資とイノベーションの促進、知的財産保護、最高レベルの製造インフラのための主要な新規優遇措置が含まれています。

① 新たなプロセス

- ・ビジネスのしやすい環境づくりを重視
- ・免許制度と規制の緩和

② 新たなインフラ

- ・産業大動脈
- ・産業クラスター
- ・スマートシティ
- ・イノベーション促進
- ・能力開発

③ 新たな分野

- ・防衛、建設、鉄道などの重要産業におけるFDIの開放

④ 新たな姿勢

- ・初めてインドに投資する投資者を到着時が案内し、支援する専門チーム
- ・全分野における、特定企業にターゲットを絞った働きかけ

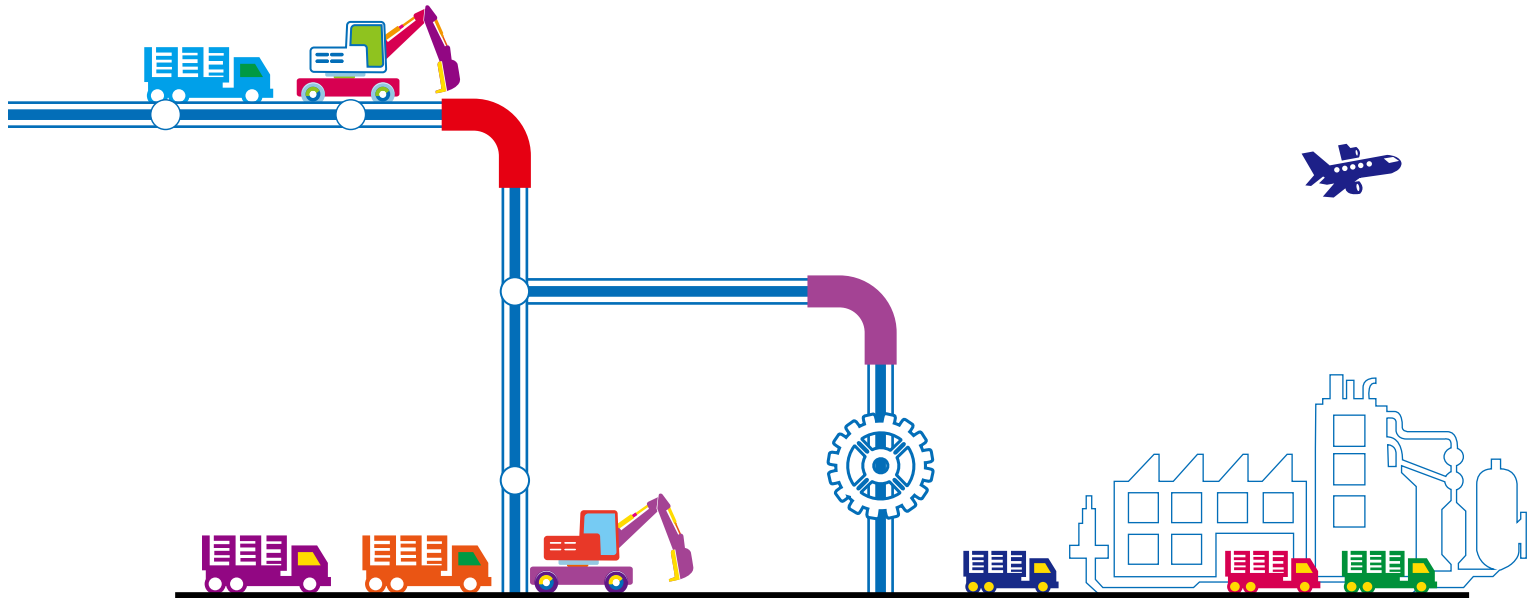
事実と数字

投資をするべき理由

- インドは最も急速な成長を続ける航空市場であり、市場規模は現在、世界第九位である。
- 2020年までに世界第三位の航空市場になると予測されている。
- 2013年度の総旅客数は1億6306万人だった。インドは最も航空機を利用した旅行の浸透率の低い国の一つであり、中国人一人当たりの航空旅行回数0.3回、米国人の2回以上に対し、インド人は0.04回である。
- インドの航空会社は2020年までに全体の航空機数を800機まで増やすことを計画している。
- インドの航空分野には、2012-17年に総額121億ドルが投資される見込み。そのうち93億ドルは民間投資の見込み。

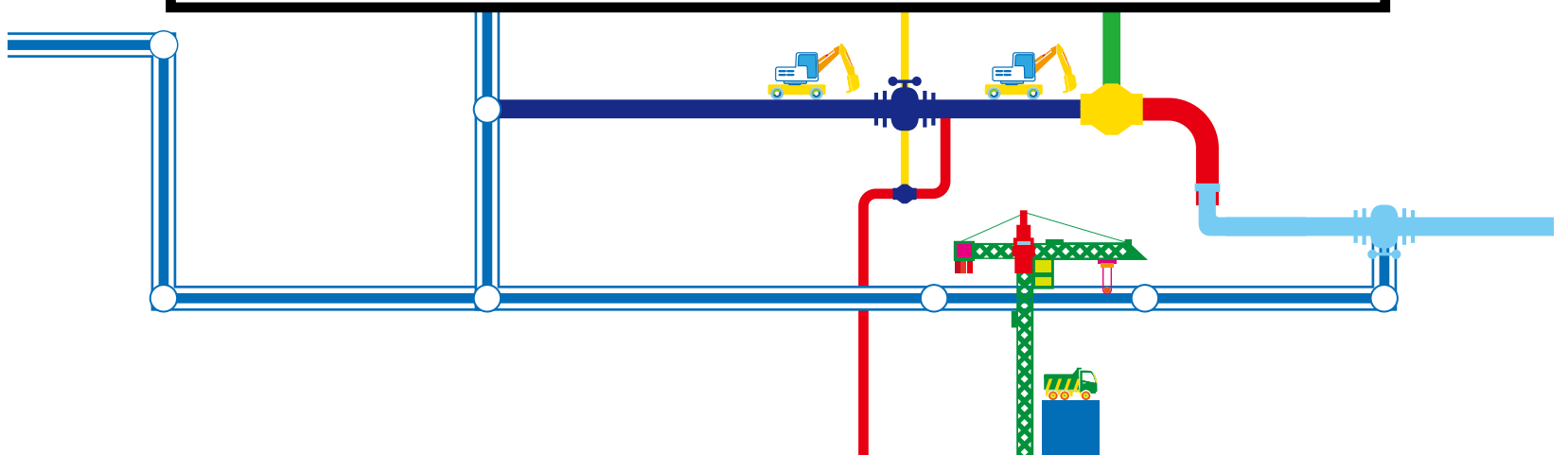
統計

- 国内旅客数年平均成長率-7.71%（2006-13年度）；2017年度までに2億900万人に達する見込み。
- 国際旅客数年平均成長率-8.96%（2006-13年度）；2017年度までに6000万人に達する見込み。
- 総貨物取扱量年平均成長率-5.2%（2006-13年度）；2013年度は219万トン。
- 85以上の国際航空会社がインドに乗り入れており、5つのインドの航空会社はインドと40カ国を接続している。



成長の牽引力

- P P P方式を通じて、五つの国際空港（デリー、ムンバイ、コーチン、ハイデラバード、バンガロール）が完成された。
- ナヴィ・ムンバイ、モバ（ゴア）、またインド空港局 が運営する数か所の既存空港、低コストモデルの 50 の空港（官民連携プロジェクトを含む）が、全土に開発される予定。
- インドの航空業は LLC や新規航空会社の台頭、航空旅行に関心を持つ拡大しつつある中産階級、出張と休暇旅行の増加などに牽引され、劇的な成長を体験している。
- インドの中産階級人口は、2011 年の 1 億 6000 万人から、2016 年には 2 億 6700 万人に拡大すると予測されている。
- インフラ開発が最重視されている。オープンスカイ政策など、航空業の自由化が進められている。空港局は空港と航空監視システムの近代化を進めている。
- 航空業の成長が、MRO サービス（保守、点検、修理）施設への需要を倍加させている。
- 大規模な提携／M & A（合併・吸収）契約：Ethihad Airways と Jet Airways；Tata Group と Singapore Airlines；Tata Group と Air Asia。
- インドは 2030 年までに操業可能な空港の数を 250 に増やすことを計画している。





投資機会

- 300機のビジネスジェット、300機の小型飛行機、250機のヘリコプターが今後5年間で現在の使用航空機数に付加される。
- 航空業の成長が保守・点検・修理施設への需要を倍加させている。
- ナヴィ・ムンバイとモパ(ゴア)における、PPP方式の新規空港建設プロジェクト。
- 新規空港開発 - インド航空局は、2020年までにインド全土で250の操業可能空港を建設する予定。
- 北東地方 - インド空港局は、グワハティを地域間ハブ空港として、アガルタラ、インパール、ディブルガルを域内ハブ空港として開発する計画を進めている。
- インド航空局は2013 - 17年に空港の近代化とアップグレードに重点を置いた、非都市部への13億ドルの投資を予定している。
- インドの空港は、経済特区 (SEZ) における航空都市計画に倣って、小売、広告、駐車場、防犯設備やサービスなどからの収益に重点を置いた、収益増強を目指している。

FDI 政策

- 新規空港プロジェクトに関しては、100%のFDIが自動承認ルートで認められている。
- 既存空港プロジェクトに関しては、74%までのFDIが自動承認ルートで認められている。74%以上100%までのFDIに関しては、政府ルートによる認可が必要となる。
- 定期国内線に関しては、49%までのFDIが自動承認ルート認められている。非居住インド人(NRI)による投資は、100%まで認められている。非定期航空サービスに関しては、49%までのFDIが自動承認ルートで認められている。49%以上74%までのFDIに関しては、政府ルートでの認可が必要となる。非居住インド人(NRI)による投資は、100%のFDIが認められている。
- ヘリコプター・サービスと水上飛行機に関しては、100%までのFDIが自動承認ルートで認められている。
- グランドハンドリング・サービスに関しては、49%までのFDIが自動承認ルートで認められている。49%以上74%までのFDIに関しては、政府ルートでの認可が必要となる。非居住インド人(NRI)による投資は、100%のFDIが認められている。
- 保全・修理機関、飛行訓練学校、技術訓練学校に関しては、100%までのFDIが自動承認ルートで認められている。
- 投資は適用される規制や民間航空局(DGCA)の認可や安全規定、その他の条件に準拠しなければならない。外国航空会社も、定期または非定期の空輸サービスを行うインドの会社に49%まで投資することが許可されている。政府ルートの認可が必要となる。



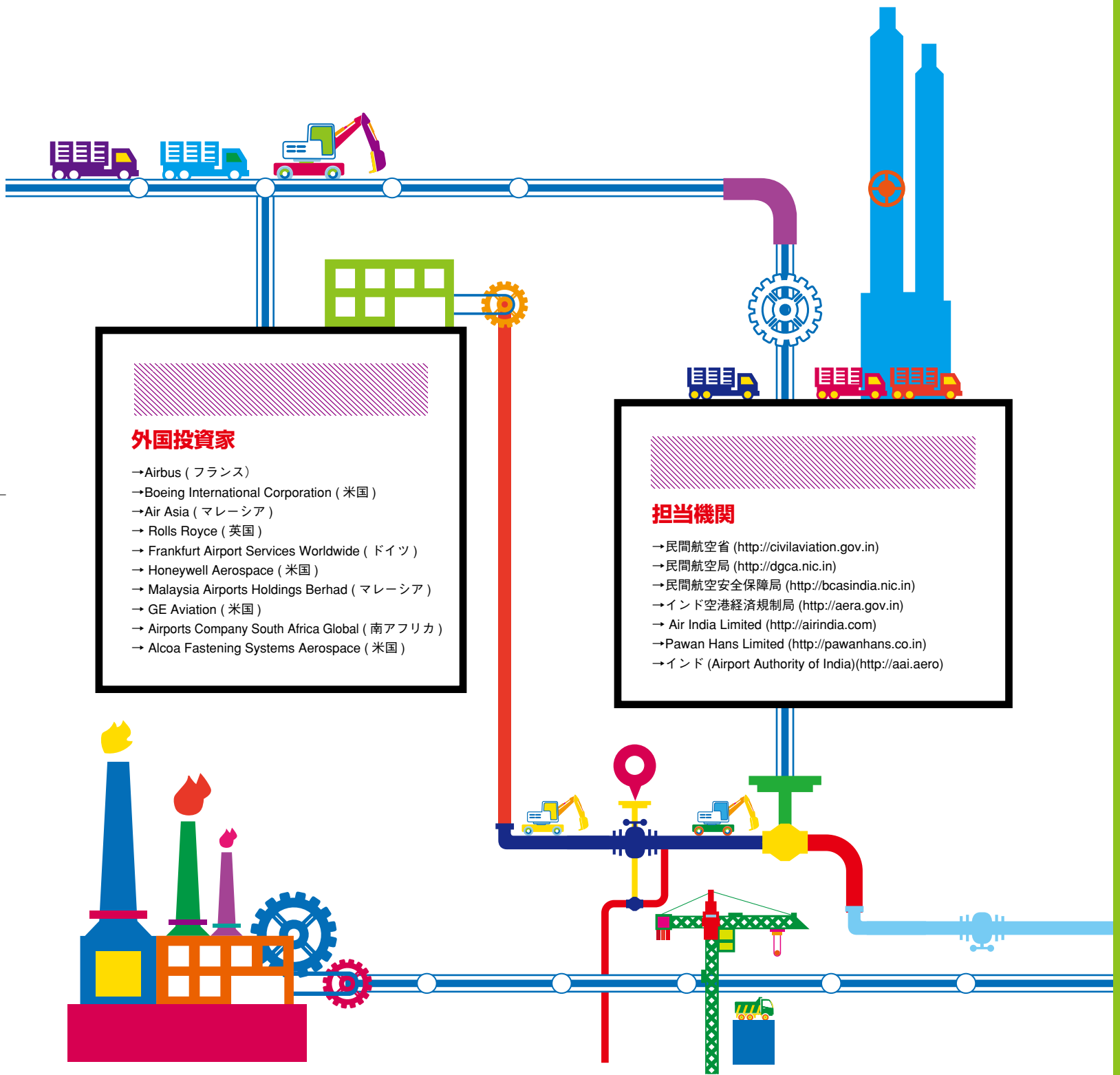
資金援助

2014年度連邦予算における条項：

- 定期航空サービスに使用される航空機の修理や保全に使用される航空機エンジン・部品に関しては、関税が免除される。
- この連邦予算には Tier 1(人口400万人超)都市、Tier 2(人口100万人規模)都市における新規空港開発も視野に入れている。
- 貨物運送車両を運営、賃借、リースする企業に関しては、所得税法第44節 AE に定められたように、推定課税が適用される。同法に関する法案は、あらゆるタイプの運送車両に対し、推定収入の額を7,500ルピーまで引上げることが提案している。
- 所得税法第80節 1A には、インフラ開発に関する免除が規定されている。
- 航空機の保全、修理、オーバーホールに使用される部品やテスト装置に関しては、基礎関税控除が適用される。
- インド北東部の州における空港インフラ開発に関しては、インド航空局に対する資金支援が設けられている。

産業政策

- インド航空局は、すべての公共部門空港の開発、資金調達、運営、保全に責任を持つ。2008年新空港政策により、新規空港建設が許可されている。インド政府による官民連携政策により、空港への投資が奨励されている。
- 地域間航空接続性政策は、非都市部の指定空港に乗り入れている航空会社に対し、着陸、駐機、ナビゲーションにかかる費用の免除を認めるという形の魅力的な優遇措置を取っている。



外国投資家

- Airbus (フランス)
- Boeing International Corporation (米国)
- Air Asia (マレーシア)
- Rolls Royce (英国)
- Frankfurt Airport Services Worldwide (ドイツ)
- Honeywell Aerospace (米国)
- Malaysia Airports Holdings Berhad (マレーシア)
- GE Aviation (米国)
- Airports Company South Africa Global (南アフリカ)
- Alcoa Fastening Systems Aerospace (米国)

担当機関

- 民間航空省 (<http://civilaviation.gov.in>)
- 民間航空局 (<http://dgca.nic.in>)
- 民間航空安全保障局 (<http://bcasindia.nic.in>)
- インド空港経済規制局 (<http://aera.gov.in>)
- Air India Limited (<http://airindia.com>)
- Pawan Hans Limited (<http://pawanhans.co.in>)
- インド (Airport Authority of India) (<http://aai.aero>)



सत्यमेव जयते

インド政府

商工省 産業政策推進庁 投資促進室

Department of Industrial Policy & Promotion

Ministry of Commerce & Industry

Investor Facilitation Cell

Tel: +91-11-23487411

お問い合わせ

インド大使館

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-2-11

電話：03-3262-2391 to 97

FAX：03-3234-4866

Email：fspic@indembassy-tokyo.gov.in

インド総領事館

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1 丁目 9-26 船場 I.S. ビル 10 階

電話：06-6261-7299

FAX：06-6261-7201

Email：cgindia@gol.com



MAKEININDIA.COM

